

3 ハクサイのセル育苗に適した品種、育苗条件

ねらいと成果

淡路島でのハクサイ栽培は、レタスと同様セル育苗が普及してきた。しかし、セル育苗は従来のソイルブロック育苗と比較すると定植後の生育が悪くなりやすい。また、黄心系品種は石灰欠乏症、ゴマ症の発生率も高くなるなど問題がある。

そこで、最近作付けが増加している黄心系ハクサイの品種と育苗条件について淡路農技のは場において検討した。

その結果、200及び128穴セルを用い、育苗日数22日間で結球重が、対照のソイルブロックよりやや劣るものの2L規格以上のものが収穫できた。また、72穴セルは、いずれの育苗日数でも対照のソイルブロックより多収となった。

石灰欠乏症が発生しなかった品種は「黄ごころ85」で、ゴマ症が発生しなかった品種は、「黄ごころ65」「黄ごころ75」であった。

内容

1 ハクサイの品種比較

表1に示した「大福75」など5品種を1997年9月4日に128穴セルトレイに播種し、9月19日に定植する年内どり作型で試験を行った。

結球重は、「黄ごころ65」がやや軽く、その他の品種は2L規格の2700gを上回った。

石灰欠乏症は、「大福75」、「CR新黄」で激しく発生したが、「黄ごころ65」「同75」では程度が軽く、「黄ごころ85」では発生しなかった。また、ゴマ症は「黄ごころ65」「同75」で発生しなかった。

2 育苗方法と育苗日数

「黄ごころ85」を供試し、育苗方法は72穴のソイルブロックを対照として72、128、200穴のセル育苗とした。播種は1994年9月4日に行い、育苗日数は、15日、22日、29日とした。

定植時の苗の大きさは、いずれの育苗日数とも培養土量が多いソイルブロック、72穴セル、128穴セル、200穴セルの順に大きかった。

結球重は、育苗日数からみると、いずれの育苗方法とも22日が最も多収で、次いで15日、29日の順であった。育苗方法からみると、22日、15日育苗は培養土量が多い育苗方法ほど多収となる傾向がみられた。しかし、29日育苗ではその傾向が認められなかった。

普及上の注意事項

ハクサイをセル育苗する場合、育苗日数は22日以内とし、苗を老化させないように注意する。

岩田 均 (中央農技・園芸部)

表1 ハクサイ品種の生育と生理障害発生程度

品種	結球重 (g)	石灰欠乏症程度(%)					ゴマ症程度(%)			
		0	1	2	3	4	5	0	1	2
大福75	2791				40	60	90	10		
CR新黄	2923		20	30	20	30	40	50	10	
黄ごころ65	2636	50	20	20	10		100			
黄ごころ75	3005	50	30	20			100			
黄ごころ85	3086	100					10	50	40	

注) 石灰欠乏症、ゴマ症の発生は数字が大きくなるほど激しい発生を表す。

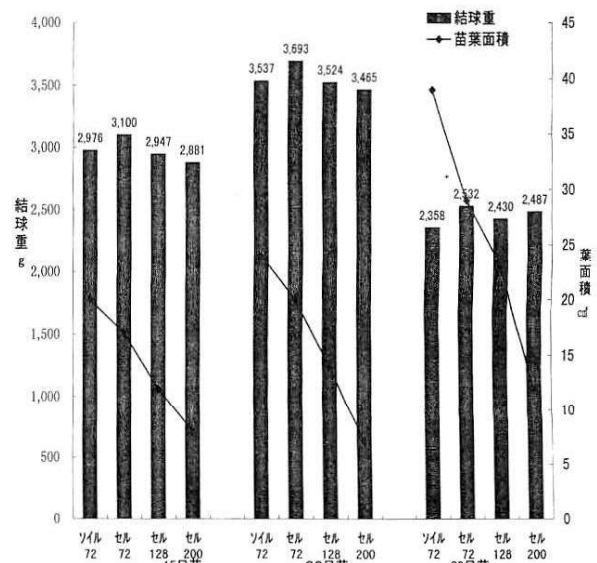


図 ハクサイ育苗法・育苗日数の違いと苗の生育・収量